



ユーザの移行

- [ユーザ移行の概要 \(1 ページ\)](#)
- [移行の要件 \(1 ページ\)](#)
- [ユーザ移行タスク フロー \(1 ページ\)](#)

ユーザ移行の概要

ここでは、IM and Presence Service クラスタ間でユーザを移行する方法について説明します。

移行の要件

- 現在のクラスタおよび移動先クラスタの両方の完全バックアップを行います。詳細については、[システムのバックアップ](#)を参照してください。
- 移行するユーザに現在の（移行前）ホームクラスタ上の Cisco Unified Presence または Cisco Jabber のライセンスが供与されていることを確認します。これらのユーザーが移行元クラスタ以外のクラスタでライセンスされている場合は、移行作業を進める前に完全にライセンスを解除しておく必要があります。

ユーザ移行タスク フロー

これらのタスクを完了して、IM と Presence ユーザを新しいクラスタに移行します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	古いエントリーを削除する (3 ページ)	ユーザを移行する前に、古くなった名簿、グループエントリー、および非プレゼンス契約レコードをすべて削除します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	移動の必須サービスの起動 (5 ページ)	移行する前に、以下のサービスが実行されていることを確認します。 <ul style="list-style-type: none"> • Cisco AXL Web Service • Cisco Sync Agent • Cisco Intercluster Sync Agent
ステップ 3	クラスタ間同期エラーの確認 (4 ページ)	トラブルシューティングを実行し、Intercluster Sync Agent に問題がないことを確認します。
ステップ 4	移行の標準プレゼンスの設定 (4 ページ)	ユーザを移行する前に、以下の標準のプレゼンス設定を構成します。
ステップ 5	ユーザ連絡先リストのエクスポート (5 ページ)	この手順を実行して、移行中のユーザの連絡先リストを現在のクラスタからエクスポートします。
ステップ 6	以下のいずれかのミニタスクフローを完了して、ユーザを新しいクラスタに移動します。 <ul style="list-style-type: none"> • LDAP 経由でのユーザの移行 (6 ページ) • 新しいクラスタへのユーザの手動での移動 (8 ページ) • 一括管理経由のユーザ移行 (11 ページ) 	ユーザを新しいクラスタに移動します。LDAP を使用して、新しいクラスタにユーザをプロビジョニングすること、ユーザを手動で移動すること、あるいは一括管理を使用して、ユーザを新しいクラスタに移行することが可能です。
ステップ 7	ホーム クラスタでの連絡先リストのインポート (16 ページ)	ユーザを新しいクラスタに移行したら、連絡先リストをインポートして、移行したユーザの連絡先データを復元します。
ステップ 8	元のクラスタでのユーザの更新 (17 ページ)	新しいクラスタですべてが正常に動作していることを確認するまで、古いクラスタからユーザーを削除しないでおくこともできます。一括管理のユーザの更新機能を使用するこの手順を使用して、古いクラスタから IM and Presence 機能を削除します。

古いエントリを削除する

ユーザを移行する前に、古くなった名簿、グループエントリ、および非プレゼンス契約レコードを削除します。これは、ユーザーがプレゼンスを無効にしたパブリッシャーのIM&Pノードで行われます。



- (注) 必要に応じて、2000 のバッチでこれらの手順を繰り返します。使用時間が長いために CLI 経由で大量の古くなったエントリを削除することができない場合は、TAC case を開いて、ルートアクセスが必要なこのセクションの最後にある古い名簿スクリプトを活用してください。

手順

ステップ 1 CLIセッションを開始します。CLIセッションを開始する方法の詳細については、『*Cisco Unified Communications Solutions* のコマンドラインインターフェイスリファレンスガイド』の「CLIセッションの起動」セクションを参照してください。

ステップ 2 古い名簿エントリを確認し、削除します。これを行うには、次のクエリを実行します。

- a) 古い名簿のエントリを確認する:

```
run sql select count(*) from rosters where user_id in (select xcp_user_id from enduser where primarynodeid is NULL)
```

- b) 古い名簿エントリの削除:

```
run sql delete from rosters where pkid in (select * from (select first 2000 pkid from rosters where user_id in (select xcp_user_id from enduser where primarynodeid is NULL)))
```

ステップ 3 古いグループレコードを確認して削除します。これを行うには、次のクエリを実行します。

- a) 古いグループレコードを確認します。

```
run sql select count(*) from groups where user_id in (select xcp_user_id from enduser where primarynodeid is NULL)
```

- b) 古いグループレコードを削除します。

```
run sql delete from groups where pkid in (select * from (select first 2000 pkid from groups where user_id in (select xcp_user_id from enduser where primarynodeid is NULL)))
```

ステップ 4 連絡先以外の古いレコードを順にチェックして削除します。これを行うには、次のクエリを実行します。

- a) 連絡先以外のレコードが順番にチェックされることを確認します。

```
run sql select count(*) from nonpresencecontacts where fkenduser in (select pkid from enduser where primarynodeid is null)
```

- b) 連絡先以外の古いレコードを順に削除します。

```
run sql delete from nonpresencecontacts where pkid in (select * from (select first 2000 pkid from nonpresencecontacts where fkenduser in (select pkid from enduser where primarynodeid is null)))
```

- c) ルートアクセス権を持っている場合は、次のクエリを使用します。

```
run sql delete from epascontactaddinfo where pkid in (select * from (select first 2000 pkid from epascontactaddinfo where pkid not in (select fkepascontactaddinfo from nonpresencecontacts)))
```

移行の標準プレゼンスの設定

ユーザを移行する前に、以下のプレゼンス設定を構成します。

手順

-
- ステップ1 Cisco Unified CM IM and Presence 管理で、**プレゼンス > 設定 > 標準設定**を選択します。
 - ステップ2 **確認プロンプトなし**で、ユーザが他のユーザのプレゼンスステータスを表示できるようにする **1** チェックボックスをオンにします。
 - ステップ3 **連絡先リストの最大サイズ (ユーザ毎)** で、**制限なし** チェックボックスをオンにします。
 - ステップ4 **ウォッチャの最大数 (ユーザ毎)** 設定では、**無制限** チェックボックスをオンにします。
 - ステップ5 **[保存 (Save)]** をクリックします。

次のタスク

[クラスタ間同期エラーの確認 \(4 ページ\)](#)

クラスタ間同期エラーの確認

移行する前に、クラスタ間の同期エラーが発生していないことを確認します。

手順

-
- ステップ1 Cisco Unified CM IM and Presence Administration から、**[診断 (Diagnostics)] > [システムトラブルシュータ (System Troubleshooter)]** を選択します。
 - ステップ2 クラスタ間の同期エラーが発生していないことを確認します。エラーがある場合は、修正を行ってから続行します。

次のタスク

[移動の必須サービスの起動 \(5 ページ\)](#)

移動の必須サービスの起動

Cisco Unified IM and Presence Serviceability において、以下の移行の重要なサービスが実行されていることを確認します。

- Cisco AXL Web Service
- Cisco Sync Agent
- Cisco Intercluster Sync Agent

手順

- ステップ 1** Cisco Unified IM and Presence Serviceability から、**ツール > コントロールセンター - 機能サービス** を選択します。
- ステップ 2** サーバド롭ダウンから、使用する IM and Presence クラスタ ノードを選択し、**移動** をクリックします。
- ステップ 3** データベースおよび管理サービスの下で **Cisco AXL Web Service** が起動していることを確認します。サービスが、実行中でない場合（デフォルト設定が実行中でない場合）、そのサービスを選択して、**起動** をクリックします。
- ステップ 4** **[Tools (ツール)] > [Control Center - Network Services (コントロール センタのネットワーク サービス)]** を選択します。
- ステップ 5** サーバド롭ダウンから、使用する IM and Presence クラスタ ノードを選択し、**移動** をクリックします。
- ステップ 6** **IM and Presence Services** の下の **Cisco Sync Agent** および **Cisco クラスタ間 Sync Agent** サービスの両方が実行中であることを確認します。実行されていない場合は、**起動** させます。

次のタスク

[ユーザ連絡先リストのエクスポート \(5 ページ\)](#)

ユーザ連絡先リストのエクスポート

この手順を実行して、移行中のユーザーの連絡先リストを現在のクラスタからエクスポートします。

手順

- ステップ 1** 現在のホーム クラスタから移行ユーザの連絡先リストをエクスポートします。
 - Cisco Unified CM IM and Presence 管理** で、**一括管理 > 連絡先リスト > エクスポート** を選択します。
 - クラスタ内のすべての未割当てユーザ を選択して、**検索** をクリックします。

- c) 結果を確認し、必要に応じて **[AND/OR (および/また)]** フィルタを使用して検索結果をフィルタリングします。
- d) リストが完了したら、**次へ** をクリックします。
- e) エクスポートされた連絡先リストデータのファイル名を選択します。
- f) 任意でジョブの説明を更新します。
- g) **[Run Now (今すぐ実行)]** をクリックするか、ジョブを後で実行するようにスケジュールします。

ステップ 2 連絡先リストのエクスポート ジョブのステータスをモニタします。

- a) **Cisco Unified CM IM and Presence 管理**で、**一括管理 > ジョブスケジューラ**を選択します。
- b) **検索** をクリックして、すべての BAT ジョブをリストします。
- c) 連絡先リストのエクスポートジョブを検索し、それが完了と報告された場合はジョブを選択します。
- d) **[CSV FileName (CSV ファイル名)]** リンクを選択して、連絡先リストのエクスポートファイルの内容を表示します。ファイル名にタイムスタンプが追加されます。
- e) **[Job Results (ジョブの結果)]** セクションから、アップロードされた内容の要約を表示するログファイルを選択します。ログファイルには、ジョブの開始時刻、終了時刻、および結果の概要が含まれます。

ステップ 3 後でユーザの移行が完了したときに使用できるように、連絡先リストのエクスポートファイルをダウンロードし、保存します。

- a) **Cisco Unified CM IM and Presence 管理**で、**一括管理 > ファイルのアップロード/ダウンロード**を選択します。
- b) **[検索 (Find)]** をクリックします。
- c) 連絡先リストのエクスポートファイルを選択し、**[Download Selected (選択項目のダウンロード)]** を選択します。
- d) 後の手順でアップロードできるように CSV ファイルをローカルに保存します。

次のタスク

以下のタスク フローのいずれかに移動して、新しいクラスタ内のユーザを割り当てます。

- [LDAP 経由でのユーザの移行 \(6 ページ\)](#)
- [新しいクラスタへのユーザの手動での移動 \(8 ページ\)](#)

LDAP 経由でのユーザの移行

ユーザが LDAP ディレクトリと同期されていて、新しいクラスタに移行する場合は、以下のタスクを実行します。



- (注) LDAP ディレクトリの設定を新しいクラスタに追加する必要があります。これには、すべてのサービス プロファイル、ユーザ プロファイル、および機能グループ テンプレートが含まれます。機能グループ テンプレートの設定で、**Unified CM IM and Presence のユーザを有効にする** チェック ボックスがオンになっていることを確認します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	外部 LDAP ディレクトリの更新 (7 ページ)	クラスタ毎に別々の LDAP 構造を使用し、ユーザが自身のホーム クラスタにのみ同期される展開の場合は、外部 LDAP ディレクトリを更新する必要があります。
ステップ 2	新しいクラスタでの LDAP の設定 (8 ページ)	Cisco Unified Communications Manager で LDAP が有効である場合は、新しいクラスタを更新された LDAP ディレクトリと同期させて、ユーザを新しいクラスタにインポートします。

次のタスク

[ホーム クラスタでの連絡先リストのインポート \(16 ページ\)](#)

外部 LDAP ディレクトリの更新

クラスタ毎に別々の LDAP 構造を使用し、ユーザが自身のホーム クラスタにのみ同期される展開の場合は、外部 LDAP ディレクトリを更新する必要があります。



- (注) 展開でフラットな LDAP 構造を使用する場合、つまり、すべてのユーザがすべての Cisco Unified Communications Manager および IM and Presence Service クラスタに同期され、ユーザが 1 つのクラスタにのみライセンスされている場合は、ユーザを移動する必要はありません。



- (注) 移行元・移行先のクラスタで LDAP ディレクトリ同期の設定内容に応じて、外部 LDAP ディレクトリ内でユーザを移動すると、次回の同期が実行される際、それらのユーザが自動的に新しい IM and Presence Service クラスタに移行される場合があります。

手順

- ステップ 1** 外部 LDAP ディレクトリ内のユーザを更新します。
- ステップ 2** ユーザの移動後、古い LDAP のクラスタから LDAP エントリを削除します。
-

次のタスク

[新しいクラスタでの LDAP の設定 \(8 ページ\)](#)

新しいクラスタでの LDAP の設定

始める前に

新しいクラスタで LDAP ディレクトリをプロビジョニングします。LDAP ディレクトリ同期にユニバーサル回線テンプレート、デバイス テンプレート、および機能グループ テンプレートが含まれている場合は、新しいクラスタでこれらのテンプレートを設定する必要があります。機能グループ テンプレートで、以下のオプションがオンになっていることを確認します。

- Home Cluster
- Unified CM IM and Presence のユーザの有効化

LDAP ディレクトリ同期の設定方法については、*Cisco Unified Communications Manager* システム設定ガイドの「エンドユーザの構成」の部分を参照してください。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM の管理で、[System (システム)] > [LDAP (LADP)] > [LDAP Directory (LDAP ディレクトリ)] を選択します。
- ステップ 2** 検索 をクリックして、設定した LDAP ディレクトリを選択します。
- ステップ 3** [Perform Full Sync Now (完全同期を今すぐ実施)] をクリックします。
-

次のタスク

[ホーム クラスタでの連絡先リストのインポート \(16 ページ\)](#)

新しいクラスタへのユーザの手動での移動

ユーザを新しいクラスタに手動で移動するには、以下のタスクを実行します。



- (注) ユーザ数が多い場合は、Cisco Unified Communications Manager の一括管理ツールを使用して、csvファイル経由で多数のユーザを更新します。詳細については、『*Bulk Administration Guide for Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	ユーザの IM and Presence の手動での無効化 (9 ページ)	現在のホーム クラスタで IM and Presence Service と Cisco Jabber へ移行するユーザを無効にします。
ステップ 2	ユーザの手動インポート (10 ページ)	新しいクラスタに LDAP 同期が設定されていない場合は、ユーザを新しい Cisco ユニファイドコミュニケーション マネージャ クラスタに手動でプロビジョニングします。
ステップ 3	新しいクラスタの IM and Presence Service のユーザの有効化 (10 ページ)	新しいホーム クラスタでユーザが同期されている場合、または手動でプロビジョニングされている場合は、手動で IM and Presence Service および Cisco Jabber のユーザを有効にする必要があります。

次のタスク

[ホーム クラスタでの連絡先リストのインポート \(16 ページ\)](#)

ユーザの IM and Presence の手動での無効化

次の手順では、現在のホーム クラスタの IM and Presence Service および Cisco Jabber の移行ユーザを無効にする方法について説明します。



- (注) 一度に移行するユーザ数が多い場合は、Cisco Unified Communications Manager の一括管理ツールを使用することを推奨します。詳細は、『*Cisco Unified Communications Manager 一括管理ガイド*』を参照してください。

始める前に

[ユーザ連絡先リストのエクスポート \(5 ページ\)](#)

手順

- ステップ1 Cisco Unified CM 管理で、> ユーザ管理 > エンド ユーザを選択します。
 - ステップ2 フィルタを使用して、IM and Presence Service を無効にするユーザを検索します。
 - ステップ3 [End User Configuration (エンド ユーザの設定)] 画面で、[Enable User for Unified CM IM and Presence (Unified CM IM and Presence にユーザを有効にします)] チェックボックスをオフにします。
 - ステップ4 [保存 (Save)] をクリックします。
-

次のタスク

[ユーザの手動インポート \(10 ページ\)](#)

ユーザの手動インポート

新しいクラスタに LDAP 同期が設定されていない場合は、ユーザを新しい Cisco ユニファイド コミュニケーションマネージャクラスタに手動でインポートします。

詳細については、「[ユーザ設定値の設定](#)」を参照してください。

次のタスク

[新しいクラスタの IM and Presence Service のユーザの有効化 \(10 ページ\)](#)

新しいクラスタの IM and Presence Service のユーザの有効化

新しいホームクラスタでユーザが同期されている場合、または手動でプロビジョニングされている場合は、手動で IM and Presence Service および Cisco Jabber のユーザを有効にする必要があります。

手順

- ステップ1 Cisco Unified CM 管理で、ユーザ管理 > エンド ユーザを選択します。
 - ステップ2 フィルタを使用して、IM and Presence Service を有効にするユーザを検索します。
 - ステップ3 [End User Configuration (エンド ユーザの設定)] 画面で、[Enable User for Unified CM IM and Presence (Unified CM IM and Presence にユーザを有効にします)] をオンにします。
 - ステップ4 [Save (保存)] をクリックします。
 - ステップ5 電話機および CSF の Cisco Unified Communications Manager のユーザをプロビジョニングします。詳細については、『*Upgrade Guide for the Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。
-

次のタスク

[ホーム クラスタでの連絡先リストのインポート \(16 ページ\)](#)

一括管理経由のユーザ移行

一括管理ツールを使用して、ユーザを新しいクラスタに移動します（たとえば、クラスタ1からクラスタ2への移行）。

始める前に

Cisco一括プロビジョニング サービスが、両方のクラスタで実行されている必要があります。



(注) [IM and Presence クラスタ]で、送信元から宛先に移動するユーザの数が100未満の場合、Cisco Intercluster Sync Agent サービスを開始または停止することはできません。

任意の送信元/宛先クラスタから100~1000ユーザを移動する場合は、送信元クラスタと宛先クラスタの両方で Intercluster Sync Agent サービスを停止して、次の手順を実行します。

移動するユーザ数が1000を超える場合（たとえば、16Kユーザを移動する必要がある場合）、まず以下の手順に従って8Kユーザを移動してから、Intercluster Sync Agent サービスを停止して、ユーザを1kのユーザ単位で移動します。その後、次の8Kをバランスの取れたシリアルシーケンスで1Kユーザーのチャンクに移動します。

ユーザがソースから移動されている IM and Presence クラスタで、次のようになります。

ステップ1 IM and Presence のパブリッシャーのプレゼンス冗長グループ (PRG) ペアの関連付けられたサブスクリバードで、Intercluster Sync Agent サービスを停止します。

ステップ2では、発行者IM and Presence プレゼンス冗長グループの発行者ノードに、Intercluster Sync Agent サービスを停止します。

ユーザがデスティネーションから移動されている IM and Presence クラスタで、次のようになります。

ステップ3では、発行者プレゼンス冗長グループのセカンダリノード上に、Intercluster Sync Agent サービスを停止します。

ステップ4では、発行者プレゼンス冗長グループの発行者ノード上に、Intercluster Sync Agent サービスを停止します。



(注) 他のクラスタノードでは、Intercluster Sync Agent サービスを停止する必要はありません。

ステップ5では、「バルク管理によるユーザの移行」で説明した手順を実行します。

ステップ6では、移行先クラスタと発信者クラスタの両方で、IM and Presence パブリッシャー、およびサブスクリバードの Intercluster Sync Agent サービスを開始します。

ステップ7では、他のすべてのクラスタが同期先クラスタとの同期を完了するまでに最大 30 分かかることがあります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	CSV ファイルへのユーザ エクスポート (12 ページ)	移行元のクラスタ (クラスタ1) で、移行するユーザを CSV ファイルにエクスポートします。
ステップ2	CSV エクスポート ファイルのダウンロード (13 ページ)	CSV エクスポート ファイルをダウンロードします。
ステップ3	新しいクラスタへのCSV エクスポート ファイルのアップロード (13 ページ)	CSV ファイルを移行先クラスタ (クラスタ2) にアップロードします。
ステップ4	ユーザ テンプレートの設定 (14 ページ)	移行先クラスタで、ユーザ設定を使用して、ユーザテンプレートを設定します。
ステップ5	新しいクラスタへのユーザの移行 (14 ページ)	CSV ファイルからユーザをインポートするには、一括管理の [ユーザの挿入] メニューを使用します。
ステップ6	一括管理によるユーザー移行の確認 (15 ページ)	一括管理によるユーザー移行の確認

CSV ファイルへのユーザ エクスポート

移行元のクラスタで、一括管理ツールを使用して、移行するユーザを CSV ファイルにエクスポートします。

注意：ジョブの実行後は、ジョブ スケジューラに移動して、ジョブのステータスを確認し、ファイルが作成されたことを確認することができます。[後で実行する]を選択した場合、ジョブ スケジューラを使用してジョブの実行時間を設定することができます。

手順

- ステップ1 Cisco Unified CM Administration から、[一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザ (Users)] > [ユーザのエクスポート (Export Users)] の順に選択します。
- ステップ2 フィルタ ツールを使用して、移行するユーザを検索して選択し、**検索**をクリックします。
- ステップ3 [次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ4 ファイルの**ファイル名**を入力します。
このツールは、ファイルの末尾に .txt 拡張子を追加します。たとえば、<csvfilename>.txt となります。
- ステップ5 **ファイル形式**のドロップダウンから、エクスポート ファイルの形式を選択します。

ステップ 6 ジョブをすぐに実行する場合、**今すぐ実行** をクリックして、**送信** をクリックします。

次のタスク

ジョブの実行後は、**ジョブスケジューラ**に移動して、ジョブのステータスを確認し、ファイルが作成されたことを確認することができます。**後で実行する**を選択した場合、ジョブスケジューラを使用してジョブの実行時間を設定することができます。

ファイルが作成されたことを確認したら、[CSV エクスポート ファイルのダウンロード \(13 ページ\)](#)。

CSV エクスポート ファイルのダウンロード

エクスポート ファイルが作成されたことを確認した後、ファイルをダウンロードします。

手順

ステップ 1 Cisco Unified CM 管理から、**一括管理 > ファイルのアップロード/ダウンロード**を選択します。

ステップ 2 [検索 (Find)] をクリックします。

ステップ 3 作成されたファイルを選択して、**選択したファイルをダウンロードする** をクリックします。

ステップ 4 ファイルをダウンロードします。

次のタスク

[新しいクラスタへのCSV エクスポート ファイルのアップロード \(13 ページ\)](#)

新しいクラスタへのCSV エクスポート ファイルのアップロード

移動先クラスタ (クラスタ 2) で、クラスタ 1 からエクスポートした CSV ファイルをアップロードします。

手順

ステップ 1 Cisco Unified CM 管理から、**一括管理 > ファイルのアップロード/ダウンロード**の順に選択します。

ステップ 2 [新規追加 (Add New)] をクリックします。

ステップ 3 [Choose File] をクリックします。別のシステムからエクスポートファイルを参照して選択します。

ステップ 4 **対象** ドロップダウンから、ファイル内容をインポートするために使用する**一括管理メニュー**を選択します。たとえば、**ユーザ**あるいは**電話機**、**およびユーザ**を選択します。

ステップ5 **トランザクションタイプ**ドロップダウンから、ファイルの内容をインポートするために使用するサブメニューを選択します。たとえば、**ユーザの挿入** または **電話/ユーザの挿入** を行います。

ステップ6 [Save (保存)] をクリックします。

次のタスク

[ユーザテンプレートの設定 \(14 ページ\)](#)

ユーザテンプレートの設定

移動先クラスターで、インポートしたユーザに適用する設定で、ユーザテンプレートを設定します。

手順

ステップ1 Cisco Unified CM 管理から、**一括管理 > ユーザ > ユーザのエクスポート** を選択します。

ステップ2 次のいずれかを実行します。

- **検索** をクリックして、既存のテンプレートを選択します。
- [新規追加 (Add New)] をクリックして新しいテンプレートを作成します。

ステップ3 インポートされたユーザに適用するユーザ設定を構成します。たとえば、以下のフィールドがオンになっていることを確認します。

- [ホームクラスター (Home Cluster)]
- [Unified CM IM and Presence のユーザを有効にする (Enable User for Unified CM IM and Presence)]

ステップ4 Microsoft Outlook を使用してカレンダーを統合するためにユーザを有効にする場合は、**プレゼンスに会議情報を含める** チェックボックスをオンにします。

ステップ5 残りのフィールドを設定します。

ステップ6 [保存 (Save)] をクリックします。

次のタスク

[新しいクラスターへのユーザの移行 \(14 ページ\)](#)

新しいクラスターへのユーザの移行

一括管理の [ユーザの挿入] メニューを使用して、エクスポートしたユーザを新しいクラスターにインポートします。

手順

-
- ステップ1 Cisco Unified CM 管理から、**一括管理 > ユーザ > ユーザのインポート**を選択します。
 - ステップ2 **ファイル名**から、他のシステムからエクスポートされたファイルを選択します。
 - ステップ3 **ユーザテンプレート名**から、先ほど作成したユーザテンプレートを選択します。
 - ステップ4 **ユーザのエクスポートで作成されたファイル** で作成されたファイルを確認します。
 - ステップ5 **今すぐ実行**をクリックして、**送信**をクリックします。
-

次のタスク

[ホーム クラスタでの連絡先リストのインポート \(16 ページ\)](#)

一括管理によるユーザー移行の確認

バルク管理を使用してユーザを移行し、送信元および宛先クラスタ上で Cisco Intercluster Sync Agent サービスを開始した後、送信元および宛先クラスタ以外のクラスタが、ユーザーの移動が発生したという通知を受信したことを確認する必要があります。

ステップ7では、他のすべてのクラスタが同期先クラスタとの同期を完了するまでに最大 30 分かかることがあります。待機している間に、(5) の IMP publishers に対してターミナルセッションを開始して、その変更の一部ではない並行して (ソースまたは通知先)、CiscoSyslogs を監視することができます。

手順

-
- ステップ1 次のコマンドを実行して、sample IMP publisher ノードが既に同期を完了しているかどうかを確認するには、バルク管理を使用してユーザを移行し、送信元および宛先クラスタ上で Cisco Intercluster Sync Agent サービスを開始します。現在のタイムスタンプを通知します。次の構文例では、通知先クラスタ名は dst 名です。これを通知先クラスタ名で置き換えます。

```
admin:file search activelog syslog/CiscoSyslog ".*InterClusterSyncAgentStatus:.*dst-name.*"
```

- ステップ2 ICSA ステータスのタイムスタンプが記録されたタイムスタンプより新しくない場合は、同期が成功するまで最大 30 分間、次のコマンドを使用します。

```
admin:file tail activelog syslog/CiscoSyslog regexp
".*InterClusterSyncAgentStatus:.*dst-name.*"
```

選択したクラスタ/ノードでICSA失敗同期ステータスアラームが表示されたは、同期ステータスアラームが正常終了するまで、5-10 分間待機します。ICSA は 5 分ごとに再試行します。同期アラームの正常なアラームがない場合、または同期失敗の整合性がとれていない場合は、TAC ケースを開いてください。

この時点で、現在の時間が 30 分後に、バルク管理を使用してユーザを移行し、送信元および宛先クラスタで Cisco Intercluster Sync Agent サービスを開始した場合、5 つのリモートサンブ

ルクラスタがあることを確認できます。これで次の移動プロセスに進むことができるようになります。また、他に何も移動していない場合は、作業が完了したことになります。

ホーム クラスタでの連絡先リストのインポート

ユーザを新しいクラスタに移行したら、連絡先リストをインポートして、移行したユーザの連絡先データを復元します。

手順

- ステップ 1** 前にエクスポートされた連絡先リストの CSV ファイルをアップロードします。
- Cisco Unified CM IM and Presence 管理**で、**一括管理 > ファイルのアップロード/ダウンロード**を選択します。
 - [Add New (新規追加)]** をクリックします。
 - 連絡先リストの CSV ファイルを選択するには、**[Browse (参照)]** をクリックします。
 - ターゲットとして **[Contact Lists (連絡先リスト)]** を選択します。
 - トランザクションタイプとして **[ユーザの連絡先のインポート-カスタムファイル (Import Users' Contacts - Custom File)]** を選択します。
 - 必要に応じて **[Overwrite File if it exists (ファイルが存在する場合は上書きする)]** をオンにします。
 - [Save (保存)]** をクリックして、ファイルをアップロードします。
 - [Save (保存)]** をクリックして、ファイルをアップロードします。
- ステップ 2** 連絡先リスト ジョブのインポートを実行します。
- Cisco Unified CM IM and Presence 管理**で、**一括管理 > 連絡先リスト > 更新**を選択します。
 - ステップ 1 でアップロードした CSV ファイルを選択します。
 - 任意でジョブの説明を更新します。
 - ジョブを今すぐ実行するには、**[Run Immediately (今すぐ実行)]** をクリックします。後で更新をスケジュールするには、**[Run Later (後で実行)]** を選択します。
 - [送信 (Submit)]** をクリックします。
- ステップ 3** 連絡先リストのインポート ステータス監視
- Cisco Unified CM IM and Presence 管理**で、**一括管理 > 連絡先リスト > ジョブスケジューラ**を選択します。
 - [Find (検索)]** をクリックして、すべての BAT ジョブをリストします。
 - ステータスが完了と報告されたら、連絡先リストのインポート ジョブのジョブ ID を選択します。
 - 連絡先リスト ファイルの内容を表示するには、**[CSV File Name (CSV ファイル名)]** にリストされているファイルを選択します。
 - [Log File Name (ログ ファイル名)]** リンクをクリックし、ログを開きます。

ジョブの開始時刻と終了時刻が表示され、結果の要約も表示されます。

元のクラスタでのユーザの更新

新しいクラスタですべてが正常に動作していることを確認するまで、古いクラスタからユーザを削除しないでおくこともできます。一括管理のユーザの更新機能を使用するこの手順を使用して、古いクラスタから IM and Presence 機能を削除します。

手順

- ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] から、[一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザ (Users)] > [ユーザの更新 (Update Users)] > [クエリ (Query)] の順に選択します。
- ステップ 2 フィルタツールを使用して、移行ユーザを検索します。たとえば、以下条件を満たすユーザのすべてを検索することができます。IM and Presence が有効になっているか。
- ステップ 3 [Next] をクリックします。
- ステップ 4 以下の2つのフィールドのそれぞれについて、一番左のチェックボックスをオンにして、隣の右側のチェックボックスはオフのままにします。左側のボックスは、フィールドを更新することを示し、右側のボックスには新しい設定 (オフ) が示されています。
 - [ホームクラスタ (Home Cluster)]
 - [Unified CM IM and Presence のユーザを有効にする (Enable User for Unified CM IM and Presence)]
- ステップ 5 ジョブ情報の下の今すぐ実行 (Run Immediately) を選択します。
- ステップ 6 [送信 (Submit)] をクリックします。

次のタスク

移行が正常に実行されたこと、すべてのユーザが新しいクラスタで適切に設定されていることの確認ができれば、元のクラスタ内の移行したユーザを削除することができます。

